

令和5年度通常総会

広之副会長が
閉会を宣言し
通常総会を閉
会した。

一般社団法人 日本植木協会会長表彰等

役職功労表彰

(会長退任)

○ 穴 倉 孝 行 氏

(有)グリーンシシクラ (埼玉県)

従業員永年勤続表彰

○ 野 田 順 一 氏
○ 厚 々 瀬 義 一 氏
○ 上 野 茂 樹 氏
○ 木 村 春 樹 氏
○ 板 谷 哲 夫 氏
○ 伊 地 知 芳 文 氏
○ 田 中 孝 文 氏
○ 田 中 大 吉 氏
○ 寄 川 哲 也 氏

(有)青木農園緑販 (福岡県)
内山グリーン(株) (福岡県)
内山グリーン(株) (福岡県)
(株)清光園芸 熊本支店
(有)キョタキナーセリー (大分県)
(有)豊南開発 (鹿児島県)
(有)松園商事 (鹿児島県)
(有)松園商事 (鹿児島県)
(有)松園商事 (鹿児島県)

【記念講演】

記念講演は、『50年、

た。

150年と1600年」そこにある植木の世界」と題して、東京農業大学名誉教授の蓼茂壽太郎氏が講演した。

蓼茂先生は、地元熊本県出身で東京農業大学の教授、副学長等を歴任し、熊本県立大学の初代理事長に就任された。また、(公社)日本造園学会会長、(公社)日本都市計画学会副会長等も歴任し、現在は(一財)公園財団理事長に就任されている。講演では、国内外の緑化、公園等の例をあげて植木が関わっていることを説明してくれた。植木屋は植木の生産だけでなく、育て上げるか、街や市民にどう繋げていくかを考えていかなければならない。

そして今後の環境への議論が必要と植木協会への今後のヒントを沢山頂いた。聴衆者は講演に引き付けられ大盛況の講演でした。講演終了後、佐久会長がお礼の言葉を述べ終りました。

【意見交換会】意見交換会は、二村貞治氏(大分植木(株)/大分県)の司会進行で始まった。はじめに酒見博文九州ブロック長の歓迎の挨拶に続き、佐久定規会長、協会顧問の有村治子参議院議員のご挨拶に続き、熊本市長(深水政彦熊本市副市長代読)のご挨拶を頂いた後、ご来賓の方々の紹介を行い、(一社)日本公園施設業協会会長の内田裕郎氏の乾杯の音頭で、懇談・懇親の宴に入った。

三年ぶりとなった意見交換会は、全国各地からの会員とご来賓の方々とのお話や互いの歓談を通して大いに盛り上がり、宴はけなわの中、(一社)熊本市造園建設業協会会長の吉村昌洋氏の中締めでお開きとなった。



記念講演の東農業大学名誉教授の蓼茂壽太郎氏



意見交換会



(一社)熊本市造園建設業協会代表理事の吉村昌洋氏



乾杯音頭をして下さった(一社)日本公園施設業協会会長内田裕郎氏



熊本市長の代読された深水政彦熊本市副市長



顧問の有村治子参議院議員



酒見博文九州ブロック長



司会を務めた二村貞治氏



次期総会予定地の中国・四国ブロックの皆さん



お知らせ

「次世代《女性》活躍推進委員会」(仮)が発足

令和5年度から名称「次世代(女性)活躍推進委員会」(仮)が広報委員会の下部組織として発足致しました。この委員会は、植木協会で女性が活躍できる環境について考え・活動を行っていきます。会員様の奥さま、お嬢さん、事務の方、従業員の方々、ぜひご参加ください。子育てや介護や仕事等で外出で出来なくても、携帯やパソコンがあればリモート会議や行事に参加できます。ぜひ、植木に携わる女性が生き生きと楽しく活動出来るよう、一緒に頑張りましょう!

問合せ 事務局 中村彩子

03-3586-7361 E-mail nakamura@ueki.or.jp

横浜国際園芸博覧会委員会に新委員が加わりました。

穴倉聡一

(有)グリーンシシクラ・埼玉県

越川芳弘

(有)越川園・千葉県

飯田貴大

(有)飯田園芸・神奈川県

近藤盛太郎

(有)小田原植木・神奈川県

安藤将志

(有)安藤苗圃・長野県

会員動向

メールアドレス変更

▷(新) h@yume-ki.com
(株)清水植物園 (福井県)

退会

▷(有)伊藤園芸 (千葉県)

訃報

▷鈴木春男 様
(鈴木光二氏のご尊父様)
(有)春光園 (東京都)
令和5年1月12日没
享年91歳

▷鈴木多喜子 様
(鈴木英夫氏のご母堂様)
(有)植英 (静岡県)
令和5年1月7日没
享年91歳

▷梶村正博 様
(梶村和男氏のご尊父様)
(有)カジムラファーム
(福岡県)
令和5年1月没
享年86歳

コンテナ部会 令和5年度通常総会

令和5年度コンテナ部会
通常総会は1月26日(木)9時
より、熊本市のTKP熊本
カンファレンスセンターで
開催されました。部会員25
名の出席を得て、司会の中
村健次幹事の開会宣言によ
り総会が進行しました。

先ず、吉澤信行部会長が
挨拶に立ち、通常総会が3
年振りに実現できたこと
を慶ぶと共にコンテナ部会
の情報はよりデジタル化を
進め、部会員に役立つ情報
の発信に努めたいと抱負を
述べました。

次に来賓として、佐久定
規(一社)日本植木協会会
長が挨拶され、コンテナ部
会が持つ樹種や生産栽培に
関する情報は非常に有益で
あり、これからも植木協会
全体で活かしていきたいと話
されました。

最後に挨拶に立った鶴飼
幸治担当理事副会長は、植
木協会が取り組む2027
年国際園芸博覧会(横浜
市)について、コンテナ部
会として様々なアイデアや
協力をお願いしたいと要請
されました。

【総会議事】
議事に先立ち、司会から
議長選出を出席者に諮った
ところ、「司会
者一任」の声に
より、徳島県支
部の(株)徳島県植
物市場の森本泰
好氏が指名さ
れ、承認されま
した。

議長は議事録
署名人の選出を
出席者に諮った
ところ、「議長
一任」の声によ
り、野口農園の
野口利浩氏と(有
限)芳坂樹苗園の芳
坂泰広氏を指名し、承認を
得ました。



総会風景

会計処理が行われていると
監査報告がされました。
議長は第1号議案と第2
号議案について出席者に
諮ったところ、意見等はな
く、賛成の拍手で一括承認
されました。

第3号議案 令和5年度事
業計画(案)

各委員長は事業計画
(案)の注力すべき活動と
して、総務会(一社)緑
のまちづくり支援機構との
連携による植木情報サイト
を構築すること、広報・普
及委員会はソーシャル・
ネットワーク・サービスの
活用を図ること、調査・研
究委員会はボタニカル・ジ
ンの材料植物を発掘するH
ANAYAGIプロジェクトの
推進、生産技術・研修
委員会は国内研修会・勉強
会の開催や助成制度を継続
導入した資材特別セールの
実施について説明を行いま
した。

第4号議案 令和5年度収
支予算(案)

令和5年度収支予算
(案)は、事務局より説明
がなされました。議長は第
3号議案と第4号議案につ
いて出席者に諮ったところ
、意見等はなく、賛成の
拍手で承認されました。

第5号議案 役員選任(案)

親協会退会で空席となっ
た監事1名について、事務
局より岐阜県支部 岐阜種
苗(株) 竹中昭雄氏の推薦が
あり、採決をとったところ
、満場一致をもって承認
されました。

以上をもって審議事項が
すべて終了したことを告
げ、議長は退席しました。
その他・報告 各賞受賞者
紹介
事務局より親協会通常総
会において、以下のコンテ
ナ部会員が表彰されたとの
報告があり、出席者一同拍
手をもって讃えました。

役員功労表彰：穴倉孝行氏
(有)グリーンシシクラ
従業員永年勤続表彰：板谷
哲夫氏(有)キョタキナーセ
リー)



吉澤信行部会長



佐久定規協会会長



鶴飼幸治担当理事副会長



記念講演会

「話のネタになる
種子(タネ)の話」
東海大学農学部 教授 長野 克也
長野先生は資源植物学、
子
アルソミトラ：羽根の形状
は薄い膜で作ら
れ、羽根の大き
さは世界最大。羽根
の大きさが遠く
飛ぶことができ
る。
フタバガキ：果実
に2〜5枚の葉と
一緒に回転しな
がら落ちる種子。
羽根の大きさは
根突きの羽根の
ような形状をして
いる。
キワタ：綿の仲間
で風を使って飛
ぶ。羽毛の様に
軽



種子標本を解説する長野克也先生

く、遠くに飛
ぶ。タイでは枕
や布団の中綿に
使用されている。
(2) 水の流れを
利用する種子
フタバゴシ：地
球上で最大の
サイズの種子。海
流に乗って遠く
に漂う。海流に
乗って遠くまで
移動する。種子
の中心に分布す
るアオイ科の
常緑高木。種子
は帆の様な形状
で潮流に乗りや
すい。
オヒルギ：マン
グローブ樹の
種子の一つで比
重の違う胎生
種子が特徴。種
子の比重が違
うことで種子の
漂流地域が広
がる。
モタモタ：世界
最大のマメ科
植物で房は2m
にも達する。海
を渡る。
(3) 動物に運ば
れ、糞と一緒に
くっついて長く
生き残る。
ツノゴマ、ライ
オンゴロシ
：種子に鉤が
あり、動物の毛
に引っかかり、
運ばれる。
ドンクリ：動物
の貯食を利用
する。リスなど
は貯食の半分を
忘れるらしい。
(4) 植物の種子
分散の究極の
方法
果物：カキ、ミ
カンなど鳥な
どが好む果物は
種子の準備が
整うまでは青く
食べさせない。
種子の準備が
完了すると果実
は鳥が好む黄色
、赤色に変化す
る。
バンクシア：豪
州で山火事を
利用して種子
を広げる。

山火事によって
表面温度800℃
になると刺激を
受け、果実の袋
が裂けて種子
が飛ぶ。
無類の種子コレ
クターである長
野先生の話に参
加者は引き込ま
れ、吉澤部会長
の謝辞で講演が
終了した後、参
加者の興味は尽
きない様子でし
た。
【総会懇談会】
12時30分より
総会会場では、
コンテナ部会役
員、担当理事、
協力会4社が参
加して懇談会が
開催されました。
松村副会長が司
会を務め、参加
者全員が自己紹
介と事業の現況
と今後の方向性
について報告・
意見を述べま
した。

協力会各社の近況では、
(有)グリーンサポ
ートは生分解性
不織布ポットに
対応する製品の
開発を進めてい
る、大信産業(株)
はダイリーグ粒
剤、スナップシ
ョットの拡販を
図っている、(株)
阪中緑化資材は
麻布・麻縄等の
緑化資材を例年
以上に確保する
中、価格動向に
工夫を図っている
、(株)東海化成
は各種ポットの
在庫補充を進め
、価格維持に努
力していること
をアピールされ
ました。

現在、協力会と
の春季資材特別
セールについて、
昨年に引き続き
購入金額の4割
キャッシュバック
還元(上限2万円)
を図る活動助成
制度を展開して
おり、部会・協
力会は相互の共
栄促進を確認し
ました。

以上13時30分
に全ての行事を
終了し、解散し
ました。

樹苗の害虫予防 公共の植栽管理

樹木用 粒状殺虫剤

ダイリーグ

粒剤

農林水産省登録
第23419号

樹木等の株元にそのまま散布するだけ。
薬剤の飛散も無く生活環境に配慮した薬剤です。

TAISHIN SANGYO CO., LTD.
大信産業株式会社
緑化部
〒722-0212 広島県尾道市美ノ郷町本郷1-36
TEL (0848) 38-1193 FAX (0848) 20-5211
http://www.taishinkk.co.jp

近年問題となっている
ゴマダラカミキリに高い効果！
その他 アブラムシ、グンバイムシ、カイガラムシにも

散布最適期
ゴマダラカミキリ 5月下旬～6月
カイガラムシ 5月下旬～6月
ツツジグンバイ 5月 7月

ダイリーグ粒剤の
使い方はこちらから

殺虫成分は、根から樹体内へ吸収されます。

植木用のポットは 東海化成におまかせください！

TOポットインポット TO浅鉢安定型ポット TOナーゼーコンテナ TOロングポット TO深鉢 TO平鉢

株式会社東海化成
〒501-3714 岐阜県美濃市曾代66
TEL / 0575-33-4112 FAX / 0575-35-1998
http://www.tokai-kasei.co.jp

ルポ

シリーズ 社園さん紹介

No.15

(株)吉田農園

鹿児島県(出水市)

今回のご紹介は、日本最大のツル(国の特別天然記念物)の渡来地である出水市で植木屋を営まれている吉田農園さん。社長の知弘さんと息子さんの宗洋さんを中心に、家族の女性3人も縁の下で力持ちで大活躍。緑化木生産の他に、新たな取り組みとして出水市の公園14ヶ所の指定管理者を請け負い、各自が得意分野で知恵を出し合い頑張っている吉田農園さんにお話を聞きました。



社長の吉田知弘さん



4代目となる宗洋さん



知弘さんが趣味で始めたイヌマキで作ったツル

まずは会社のことを教えてください。

社長の知弘さん：「初代の爺さんが昭和3年にここ出水市に来て苗木生産を始めて95年程になります。もうすぐ息子の宗洋が4代目になる予定ですが、現在は7人で経営しています。圃場は約30カ所あり、主にクスノキ、タブノキ等の中高木の植木生産と、3年前から出水市の14ヶ所の公園の指定管理者として日々努めています」。

公園の指定管理とはどのような仕事ですか？

知弘さん：「現場の公園管理の作業をしつつ、娘と息子が役所の細かい書類作成をしています。私はもう爺さんだから朝早く目が覚めるので先に公園に行って作業を行い、その後男性陣が芝刈りや剪定をして、女性陣がその掃除をします。出水市からも“夏場は1つの公園につき1ヶ月に3回草刈りをしてください”と言われてます。夏はすぐに草木が伸びますし、暑さが厳しいので大変です。またトイレや施設に関しても細心の注意を払って管理しています」。

指定管理者とは公園の全ての運営を任されているということですか？

美代子さん：「そうなんです。例えば先日は氷点下の寒さでしたので、全ての公園の水道の蛇口をひねって確認をしたり、電気が付かない場合はどこが悪いのか確認して業者さんに修理したりしてもらいます。私も最初は施設まで管理するという仕組みを知らなかったので戸惑いました」。



指定管理で管理している青木公園と出水駅横の出水駅東口緑地公園



それは責任のあるお仕事ですね？

美代子さん：「はい。巡回は全ての公園を利用者の多い週末の前後日として、毎週月曜と金曜に点検をしています。トイレトパーパーが不足していたら補充しますし、ゴミが落ちてないか、危険なものが落ちてないか？等も確認しています」。

指定管理の書類作成は大変そうですね？

智美さん：「はい、会社の一般事務と両方なのでバタバタです。指定管理の提出書類は弟の宗洋と2人でやっています」。

宗洋さん：「サラリーマン時代にパソコン業務等、色々な勉強や社会経験をしてきました。今思うと無駄ではなかったと思います」。

どうして指定管理のお仕事を請け負ったのですか？

知弘さん：「植木生産と流通だけなんです、今の時代厳しいので新しいことを始めたのです。家業を継ぐと期待もしていなかった息子が急に戻ってくると妻から聞いて、“給料を払わなくちゃならん！”と考えました。だから息子に“公園の指定管理の募集があるけどやってみるか？”と確認したら本人が“やってみる！”と断言したことが始まりです。資格がないと応募もできなかったのですが、私も頭が回る若い頃、造園施工管理士1級の免許を取得してよかったです」。

宗洋さんが植木屋さんを継ごうと思ったきっかけは？

宗洋さん：「福岡大学に行き、そのまま福岡で緑化とは全く関係のないサラリーマンを約8年間していました。将来に迷っていた30歳手前にお盆に実家に帰った時に、85歳になるお祖母ちゃんと2人で話して、“俺が後を継ぐ”と約束しました。そして、その半年後に戻ってきました」。

事務局：「とってもいい話ですね！親子だと直接話せない事もお祖母さまには話せることってありますよね。お祖母さまがキーマンですね！」と言うと宗洋さんは照れ笑いをしていました。

お父様としてはホッとしたでしょうね？

知弘さん：「私の代で植木屋は終わりと覚悟していたのですが、お袋と妻がこっそり話をしていたみたいですね。やられたな～という感じですが、今となっては感謝です」(笑)。

公園の指定管理者は継続できるのですか？

知弘さん：「最初は3年間でしたが、今年の4月からは5年間契約をもらえ、公園も1つ増えました。確実な収入源があることは、従業員に給料が払えるメドが付くので助かります。」…安定した収入があるということはとても大事なことです。

では、緑化木の生産の方は？

宗洋さん：「うちの生産メインは中高木です。幹周50センチ～100センチ前後の木が多いです。最近では種から作っているヤシもあり、小さいヤシやソテツは個人邸にはよく売れます」。

お庭に素敵なツルのトピアリーがありますね？

知弘さん：「トピアリーは通常ツゲとかで作ると思うのですが、出水市の市町村の木はイヌマキですし、出水市はツルの渡来地で有名ということで、趣味で10年前に作りました。試作段階ではありますが、犬もあります(笑)。ツルの足を作るために苗木を2本少し離して植えて、細い足に見立てた幹にするのに約3年掛かりますが、皆さん面白がって見ていきます」。

仕事をして良かったなと思うことは？

幸代さん：「公園で作業をしていると、たまに利用者さんが声を掛けてくださって、“キレイですね”“助かります”という声を直接頂けると励みになりますし嬉しいです。また、コロナ禍になって公園で遊ぶことが重要視されていて、親子で公園に来ている姿を見ると、“この仕事をさせてもらってよかったなあ”と思います」。



下段右から社長の吉田知弘さん、吉田宗洋さん
上段右から社長の娘さんの杉 智美さん、奥様の美代子さん、妹さんの佐藤幸代さん、中村さん、杉 正利さん



枝物のラカンマキ



圃場には、クスノキやタブノキなどの高木や中木が沢山

これからに向けて一言

智美さん：「指定管理者をさせてもらっているなか、提出期限がある書類も多いので、市から言われた書類など迅速に対応していきたいです」。

宗洋さん：「協会の緑育ではないですが、“みどり”は癒しや安らぎとして大切なものです。その思いも込めて出水市の皆さんにきれいに・気持ちよく・安全に公園を利用してもらえるよう頑張ります。また、緑化木の販売だけでも経営がうまく回るように、これから流行りそうな木も沢山作っておきます」。



自宅庭

以前、植木協会の名木に認定されたヤマモモ：樹齢300年位



1カ月のスケジュール黒板には予定がびっしり



智美さんが植栽したロックガーデン風のエントランス



OB 野球の際の宗洋さん

皆さんの趣味を聞いてみました！

知弘さん：ラーメン巡り。お気に入りのは枕崎のかつおラーメンと串木野のまぐろラーメン。

宗洋さん：野球とゴルフ。中学から続けている野球は今も草野球チームに入って大活躍。

美代子さん：以前は地域のバレーボールだったけど今は家庭菜園と、社長とのドライブ(付き合っあけています)。

幸代さん：家庭菜園や写真展観賞や自分でも写真を撮るのは好き。

智美さん：園芸コーナー等に行行って変わったオージーの植物を探してみたりすることが好きとのこと。



令和4年6月2日横浜市の三溪園にて東日本ブロック研修会が行われました。新型コロナウイルス感染症拡大により3年ぶりの開催に

園内の視察を行って行きま



出席された会員の方々はガイドの説明を聞きながら



三溪園は明治時代の実業家原三溪によって横浜市

今年3年ぶりの研修会とい

東日本ブロック研修会

神奈川支部部長

高橋慎一郎

(関六園)

青年部会だより

した。観光地ならではの管理方法や問題点などを聞きながらそこに植木屋独自の視点を織り交せて意見交換したり、庭園管理の裏話や苦労話を聞いて共感する声が上がったり、管理方法を参考にしたり、逆に自社の管理方法を紹介したりなど皆思い思いの視点や方法で視察をしていきました。最後には普段一般公開されていない庭石を特別に見せていただいていた研修会は終了となりました。

連載「多肉・珍奇植物」

第1回 令和のビザールプランツ熱を修景材料の視点に

東京都市大学環境学部教授 飯島 健太郎



◆プロフィール
東京都市大学環境学部教授。桐蔭横浜大学工学部専任講師、同医学部准教授を経て現職。博士（農学）。日本造園学会賞／研究論文部門受賞、東京農業大学造園大賞受賞。著書：『新しい都市緑化・ガーデニング材料／多肉植物』（ソフトサイエンス社）、『サボテン大好き』（講談社）、『多肉植物の名前400がよくわかる図鑑』（主婦と生活社）、『サボテン全書』（監修、グラフィック社）、『多肉植物全書』（監修、グラフィック社）など。



アガベとユッカのロックガーデン（神奈川県内）

平成末期から続く令和の多肉植物熱は、ビザールプランツ「珍奇植物」と称してこれまでにない波及効果を見せている。マガジンハウスのBRUTUSに2015年から珍奇植物が取り上げられ、2020年には特別編集されたムック本『BIZARRE PLANTS HANDBOOK』が発行されるなど、趣味実用「園芸」コーナーではなく目立つ雑誌コーナーに配架されたこともブームに大きく寄与したであろう。相次いで関連図書も出版された。このブームから派生した従前の園芸趣味人だけではなく世界観との結びつきが興味深い。こだわりのファッションやバイク趣味に多肉の鉢が並ぶ空間、一点物のハンドメイドの陶器とのコラボなどわたしだけのオリジナルの世界を展開している。コレクションへの傾注のみならず、同種であっても極端に寸詰まりや扁平な形態であったり、顕著に鋸歯が発達した個体を求める向きもある。仕立てにも新たな傾向がみられ、特にブランチと称する人為的な分枝スタイルの鉢物も人気だ。インターネット上のオークションに加え、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなどのSNSを通じた交流、作品の展示、普及交換、セミプロの販促活動を通じて、この世界のすそ野を拡大させている。グーグルトレンド機能による検索行動からみた「多肉植物」の用語の動向からも年々増加する傾向を示している。

珍奇植物として登場するのは、亀甲竜などの塊根植物、アガベ、ユッカ、アナナス、ケレウス、コルディリネ、アロエ、原種ラン、ケーパバルブ、ソテツ、ヤシ、ピカクシダなどである。コアな世界ではあるものの、その愛好家の多くがミレニアル世代であり、Z世代も加わりつつある点が、かつての多肉ブームとはかなり異なる点であり、一過性の熱で冷めてしまわないようにしたい。さてこの分野にも期待と課題など話題が尽きない。すでにブームがあった葉ものセダム、エケベリア類を中心としたアレンジメントの世界とは一線を画して、珍奇植物を対象に個体そのものを飾



青白い葉のユッカと赤い葉のコルディリネなど色彩のコントラストが美しい

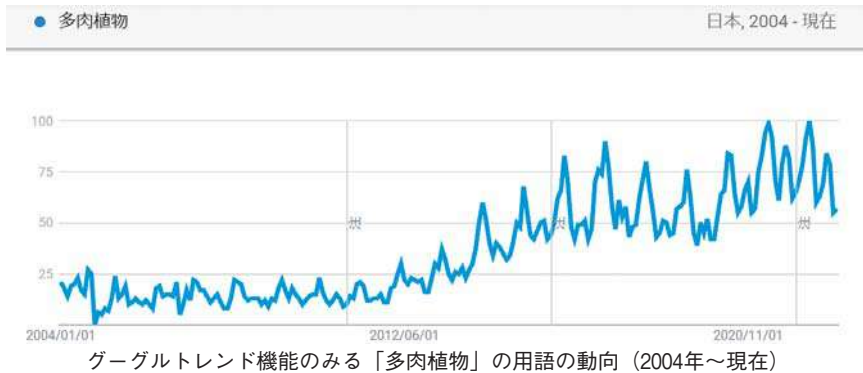
る、あるいは組み合わせさせてアレンジする、かたく育てるといった独特の楽しみ方であり、その幾何学的かつ立体的なフォルム、模様、鋸歯などのテクスチャーなど非常によく観察し、こだわりの栽培を展開している。



住宅外構のカクタスを中心としたドライガーデン（横浜市内）

陽光が十分に得られない環境でも昨今の高性能なLED補光器具を駆使した栽培と部屋の演出もしばしば話題となる。なかなか手が出ない高価な種類では、小さな挿し木苗や実生からチャレンジするなど育てる行為が増えていること、コレクションという楽しみだけでなく大型の苗をエクステリアとして鉢鉢やコンテナ植栽、デザート風、熱帯リゾート風にロックガーデンとして植栽するケースにも発展していることなど、この分野が拡大多様化の様相を見せている。一方、これまでの珍品趣味や希少性への関心、山採りへの関心も根強く、普及という面と自生地

の保護の観点からも課題が多い。
あらためて人類史をはるかに超えて長時間をかけて厳しい環境のなかで進化適応しつつこうしたフォルムを携えてきた多様性とその自生地を守りつつ、増殖品からそうした形態に近づける栽培技術を磨いていくことを楽しみとすべきであろう。供給面については、従前から多肉植物（サボテン）の専門業者が単品種大量生産ではなく、多品種少量生産体制で、とりわけ2寸～3寸鉢程度の小型のものを生産し、これが流通の中心となっている。人の背丈程度のものは観葉植物（温室植物）生産から、さらに見上げるようなビッグサイズになると植木生産の一部で特殊樹というジャンルで展開してきた。一方、ドライガーデン志向と珍奇植物熱がハイブリッド化したような需要から、ユッカをはじめ、アガベ、ダシリリオン、ブラックボーイ、柱サボテン、ウチワサボテンなどに特化した生産も見られる。これまでのミクロにはまっていく多肉植物マニアとは逆行して、昨今の大型化に向かっている趣味趣向の勢いを一過性に終わらせず、植木生産の場面からも屋内外の景観形成植物の一つのジャンルとして発展させ、こうした植物の特徴が生かせる環境条件や植栽可能域の議論を展開していくとよい。あらためてその普及のためには、日本クライメートゾーンの視点や日本植木協会が企画発行した『グラウンドカバープランツ／植栽分布と耐性』（1994）にみる植栽可能域の議論が欠かせない。次回以降は、珍奇植物の代表的な種類と用途の解説を行っていきたい。



特集 植木類に加害する外来病害虫・東京周辺の事例⑪

モモヒメヨコバイ

樹木医 小林 明

東京周辺で発生している外来種の病害虫は、そろそろ紹介し尽くしたかと思っていたところ、新たな害虫の侵入が確認されました。その一つがモモヒメヨコバイです(写真1)。

2020年の夏ごろから、東京都内でウメの葉が黄ばんだような症状を見かけるようになりました。当初は原因が不明でしたが、和歌山県果樹試験場などでモモヒメヨコバイによる吸汁害として報告されました。昨年の夏以降、都内ではウメやモモなどに加え、シダレザクラ(イトザクラ)にも寄生しているのを見かけるようになりました。

確認された当初は、ウメシロヒメヨコバイという仮称でしたが、現在はモモヒメヨコバイと呼ばれています。ここでは、これまで公表されている資料を参考に

【中国や台湾、韓国などから来た外来種】

日本では、沖縄県に生息している記録があり、国内由来の外来種とも言えます。本州では2019年に和歌山県内で初の確認後、2022年8月には1都2府13県で発生が確認され、関東地方では、東京都の他に埼玉、群馬、栃木の各県が含まれています。

筆者がモモヒメヨコバイの成虫を初めて見たのは、昨年の10月上旬で、樹種はシダレザクラとエドヒガン

系、舞姫でした。樹冠全体が黄ばんで見え、葉は吸汁害により、淡い黄色になっていました(写真2と3)。

【モモヒメヨコバイの特徴】

カメムシ目ヨコバイ科に属し、「ヨコバイ」の名があるように、横方向にも素早く動いて飛翔力もあります。

成虫の体長は3mmほど、色は黄緑色です。頭の部分の両側に黒い点があることが見分ける際のポイントです。主に葉の裏で見えますが、表面にもいることもあります。幼虫はまだ見ていませんが、発生初期は淡い黄色で次第に黄緑色になるといういっ

都内では葉が開くころから幼虫が発生し、成虫は11月上旬まで見かけます。また、葉裏には脱皮した抜け殻が残ることがあります(写真



写真1 モモヒメヨコバイの成虫 (撮影：和田博幸樹木医)



写真4 ウメの葉裏のモモヒメヨコバイの抜け殻 (2022年11月2日千代田区内)

4。年に何回発生し、どのように広がるかなどの生態の詳細は、今のところ不明とされています。

【被害の概要】

被害を受ける樹種には、国内ではウメ、モモ、スモモ、アンズ、オウトウ等のバラ科の果樹類の報告があり、海外ではサンザシやポポー、ポプラ等の被害報告があるとのことです。これに、サクラ類のエドヒガンやシダレザクラが加わり、被害を受ける樹種が新たに増える可能性もあり、注意したいところです。

被害状況は、幼虫と成虫が葉を吸汁し、吸汁された葉が、次第に緑色が薄くなり黄ばんだり白っぽくなったりすることです。吸汁害が多い葉は、早期に落葉します。

新しい病害虫に共通することですが、適用できる農薬は現時点ではありません。このため、観察により発生した枝葉を切除し、地中に埋めたり焼却したりすることが推奨されています。

近年の外来種による病害虫防除に向けた農業開発は、既存の薬剤を含めてスビッドアップしてきており、このモモヒメヨコバイに対する登録薬剤の早期実現に期待したいと考えています。



写真2 吸汁被害を受けたエドヒガン (2022年10月1日国立市内)

成虫の体長は3mmほど、色は黄緑色です。頭の部分の両側に黒い点があることが見分ける際のポイントです。主に葉の裏で見えますが、表面にもいることもあります。幼虫はまだ見ていませんが、発生初期は淡い黄色で次第に黄緑色になるといういっ



写真3 全体的に葉が黄ばんだシダレザクラ (2022年10月1日国立市)



キクザキイチゲ '雪の精'



キクザキイチゲ '変化咲き'



キクザキイチゲ '蒼穹'



ハクサンイチゲ



ユキワリイチゲ



キクザキイチゲ '紫雲'



ユキワリイチゲ '細弁'



ユキワリイチゲ

素描挿話。

～すてきな花達に魅せられて

⑮ワビスケ

小岩井農牧(株) (岩手県)

たろ さわ ただし
足 澤 匡

今回のスケッチは、「ヤブツバキ'小夜侘助'Camellia japonica'Sayo-wabisuke'」。私はツバキの仲間の中で、「侘助(わびすけ)」に魅力を感じます。ヤブツバキに比べ、派手ではなく、ひかえめで、楚々として、どこか品があるからです…が、「侘助」って、何…？

「侘助」は、雄しべの束、花糸が退化してラッパ咲きになるツバキの一品種であると思っていました。そこで、いろいろと調べてみると、名前の由来は、豊臣秀吉の朝鮮出兵の際、持ち帰った人の名、千利休に仕えていた庭師の名、千利休が「わびさび」を好み、「侘び好き」から、

など諸説あり、出現についても、ヤブツバキとチャノキの雑種、ヤブツバキと中国原産のカラツバキの雑種、ヤブツバキの突然変異、ユキツバキの突然変異、など、様々な説があり、はっきりしていない事が分かったのです。さらに、今回の'小夜侘助'は、子房に毛が無いので、「ヤブツバキ C. japonica」の一品種ですが、太郎冠者(有楽椿)、白侘助、紅侘助、胡蝶侘助、などは、子房に毛があり、種名に「uraku」や「wabisuke」など充てている図鑑がありました。親が分からないので、種名を記入せず「Camellia'○○'」と表現してもいいかも…。

ちなみに、「椿(ツバキ)」は日本の春を代表する花木の一つ。とはいえ、私が生まれた岩手県盛岡市周辺には、ツバキに限らず、常緑広葉樹の高木の自生が無いため、あまり馴染みがありませんでした。ヤブツバキの自生地は海岸に多く、北限は青森県夏泊半島ですが、太平洋側では岩手県の大船渡などにあります。乾寒風から身を守るために、竹林の中のような環境に自生地があるのを見たことがあります。また、ツバキは花糸の基が花弁とも合着し、5枚の花弁がバラバラにならないのに、合弁花ではなく離弁花…。不思議ですよ。ちなみに、ツバキの語源は、「ツヤのある葉を持つ木」→「ツヤ葉の木」→「ツバキ」と、以前書きましたが、「厚い葉の木」→「厚葉木(あつばき)」→「ツバキ」など、諸説あります。いろいろと書きましたが、植物に対する興味は尽きませんね。だから、楽しいです。



株式会社アスコット
TEL.045-222-0215

QR 緑の名札

QR-BP タイプ (写真・解説入り)

サクラ'横浜緋桜'

Cerasus x kanzakura 'Yokohama-hizakura'

バラ科 サクラ属

4月上旬ごろに紅紫色の花を咲かせる。横浜で作出されたカンヒザクラの品種です。

QRコードから詳しい植物情報をご覧ください。



当社図鑑
ページへ

価 格 (消費税込み)

大型 4,730 円

中型 4,180 円

小型 3,850 円

S モデル 3,300 円

写真、解説入りタイプも
同一価格でお得な QR 樹名札

〒231-0027 横浜市中区扇町 2-4-5-201

メール / jumeifuda@ascot-f.co.jp

www.ascot-f.co.jp/



緑化・造園・生産資材・農業資材取扱

根巻三角・四角・ロール自社製造、特注対応!!

麻なわ、麻かたなわ、幹巻ロール、スギテープ、棕櫚なわ

◆安価な地中容器「エコノミーポット」

定番サイズ15cm、18cm、21cm、25cm、30cm
以外にも大きな50cm、60cm、70cm、80cmなど
お客様のご希望に沿った特注サイズにも
対応します。

◆夏の草取りを軽減するポット用防草マット (各サイズ有)

◆活着率バツグンの根が巻かない「空中ポットレストレー」「ポットレスコンテナ230」をどうぞ。

SRS ㈱阪中緑化資材

649-6124和歌山県紀の川市桃山町市場269-1

HP <http://www.sakanaka.co.jp> e-mail : srs@sakanaka.co.jp

TEL0736-66-2201

FAX0736-66-2172



日本列島植木植物園

ナショナルプランツ コレクション※

イチリンソウ

園川原田邦彦 確実園園芸場 (茨城県) ☎029-872-0051

この仲間は学名でいうと *Anemone* です。一番有名で誰でも頭に浮かぶのは球根のアネモネで、続いて宿根草のシュウメイギクだと思われます。日本の自生するのはみな宿根草です。11種6変種ほど自生しており、自然の中で数多くの変異が見つかっており紹介されています。葉が最初に出る(12月)ユキワリイチゲ、山菜としても有名なニリンソウ、大形で花の変異した品種がぞくぞく発見されているキクザキイチゲ等が、造園植栽でも利用すると面白く、グラウンドカバーとしてもいいですし、事実植栽がされています。

海外でのこの仲間と日本と同じような宿根草では、黄色の一重、八重、クリーム色の一重等が知られています。当園では、40品種ほど収集保存、増殖をしています。



キクザキイチゲ



イチリンソウ



ニリンソウ



キクザキイチゲ '大輪花'



イチリンソウ '加賀緑宝'



ニチリンソウ小形



黄花八重 セイヨウイチリンソウ



キクザキイチゲ '大輪'

令和4年度 緑育出前授業実施12回 参加者1,218名程 平成21年度からの累計176回予定／15,052名程

2022/2/9 大分県支部 大分県立杵築市立小学校 全学年



毎年行っている海岸林の保全活動です。植樹をきっかけに児童の皆さんに海岸林の役割、黒松と人間の関わり、黒松と松露菌の共生について勉強してもらった。人数が多かったが、地元自治会の方々の熱心な取り組みもあり問題なく活動を行うことが出来ました。

2022/2/14 鹿児島県支部
出水市立蕨島小学校 3年生



① この木何の木 樹木名当てフィールドワーク ゲーム・校庭等にある樹木でこの木何の木を樹木の特徴などを観察し匂いなども感じてもらった。
② 樹名板取り付け体験 児童自身が作成した樹名板を取り付けた。児童は落葉樹でも樹皮の模様枝の様子など、触ってみたりして観察することができ、緑に対する興味がわくことを見てとれた。

2022/5/14 協会緑育委員会
みどりの感謝祭・
東京都立木場公園(江東区)



こけ玉作りのワークショップをした。開始直後、長蛇の列となったため整理券を配布した。「365日の誕生日の木」は人気があり、協会PRも行った。

2022/7/27 三重県支部
Dream station 学童 1～4年生



緑育パンフレット2組を使用して、植物や木が地球を守るために大切な役割を果たしていることを説明し、花の寄せ植え体験は、花の苗を植えて毎日水やりをして植物は育てるということを学んでもらった。

2022/8/30 三重県支部
椿小学校放課後児童クラブひまわり 1～6年生



緑育パンフを使用して1年生にも分かるように説明した。今回は花の寄せ植え体験を初めて室内で実施しました。ブルーシートを床に敷き、準備、片付けもスムーズにできました。先生方や子どもも積極的に協力してくれました。

2022/10/17 愛知県支部
豊川市立萩小学校



アジサイの挿し木を生徒に体験して頂き、樹木に触れて楽しんでもらい生徒たちは楽しんでもらったので将来の緑化を必要と感じる一助になれば嬉しく思う。樹木に触れて楽しんでもらえ、予想以上に興味を持っていたようだ。

2022/10/18 協会緑育委員会
東京都港区立赤坂小学校 4年生



6人の児童に対して1つの緑育体験キットでイチヨウ苗木が8本 ハナミズキ苗木が8本を植えてもらった。児童主体の意見交換会(ディベート方式)を実施した。多くの児童が手を挙げて堂々と意見をいい、正解論はないが、植木の在り方についてグループの意見を言ってもらった。

2022/10/27～10/30 協会緑育委員会
日比谷公園ガーデニングショー



ミニ寄せ盆栽の体験は86名の方に体験してもらった。体験には20分程度かけ、寄せ植えのアドバイスを行いながら、育て方、緑の大切さ、協会のPRを行った。参加者にはアンケートと協会・緑育パンフ等配布して更に緑の大切さに努めた。「365日の誕生日の木」で身近に感じてもらうよう努めた。

2022/11/1 協会緑育委員会・東京支部
東京都港区立弁小学校 4年生



緑育体験キットでハナミズキ苗木が15本を植えてもらった。児童主体の意見交換会(ディベート方式)を実施し、「植木はCO₂を吸収して酸素をだすから環境にいい。植木はいいことだ。リラックスなどにもよいという高度な意見も出た。

2022/11/1 鹿児島県支部
出水市立西出水小学校 3年生



1 限目 座学 環境や環境問題に対する興味や関心を樹木・植物・みどりが地球環境に与える役割をスライドを用い教えた。
2 限目 フィールドワーク 小学校の校庭にある樹木とふれあい、葉っぱや樹皮の違い、匂いなどを体感し、樹木の大切さや違いなどを観察・体感してもらった。

2022/11/8 福岡県支部 飯塚市穎田小学校 3、6年生



昨年度同様に、福岡県環境緑化懇話会主催の「笠城ダム公園植栽ボランティア」合同活動を行った。木を植えることによる環境・景観効果など緑の大切さを伝え、実際に植栽を行い、樹木の特徴・扱い方・育ち方・管理方法も教えた。

2022/11/17 三重県支部 鈴鹿市立石薬師小学校 4年生



プロジェクターを使い、産地の植木について説明した。その後、産地の植木を使い植え替え剪定をして、子どもたちに緑の大事さを知ってもらい、興味を持ってもらったのでよかった。

